

第1号議案 2019年度事業報告

I 一般事業

1 会員の状況（総会議案書に掲載）

2 広報事業

- (1) 会誌「北海道の自然」の発行：第58号（2020年2月、112頁）
- (2) 会報「NC Hokkaido」の発行：No.178（2019年4月、8頁）、No.179（2018年8月、14頁）、No.180（2020年1月、16頁）、
- (3) ホームページのリニューアルと内容の充実（適宜追加）

3 普及事業

- (1) 第26回夏休み自然観察記録コンクールの開催（募集期間：2019年7月29日～9月24日、応募数：32校、77点）
金賞（1点）：加藤 賢成（札幌市立平岡公園小学校4年）「アマガエル 夏休みの・・・観察記録！」
銀賞（2点）：土屋 檜生（安平町立追分小学校3年）「ぼくをドキドキさせるオオクワガタ」
：福井 春太郎・清夏（札幌市立宮の森小学校6年・3年共同作品）「ナメクジは『家出』していない！～カタツムリとナメクジの違いを検証～」
銅賞6点、佳作20点
学校賞：札幌市立大倉山小学校・札幌市立藻岩小学校・札幌市立北陽小学校
- (2) 第26回夏休み自然観察記録コンクール入賞作品の展示
 - ① 2019年10月29日～11月4日、札幌市資料館、来場者総数約400名
 - ② 2020年1月6日～13日、札幌市円山動物園科学館ホール、来場者総数約500名
- (3) 自然保護講演会・シンポジウム
 - ① 2019年5月18日 総会後の自然保護講演会「遺跡からわかるヒトと自然環境の関係」
高倉 純氏（北海道大学埋蔵文化財調査センター助教、札幌市資料館、参加者40人）
 - ② 2019年6月16日 シンポジウム「危機に瀕する再生不可能な北海道の価値－風力発電は負の遺産となる－」（北海学園大学3号館、参加者80名）
- (4) 自然を語る会 テーマ「身近な自然－もっと知りたい円山・三角山－」
（2019年8～10月、札幌市立大学サテライトキャンパス、参加者各回50人以上）
 - ① 2019年8月20日「円山動物園の森ビオトープ－11年間の植物群落モニタリングから見えてきた外来種と在来種のこれまでとこれから－」矢部和夫氏（札幌市立大学教授）興野昌樹氏（学校法人総合技術学園理事長）
 - ② 2019年9月17日「三角山採石跡地の地質・地層・歴史」宮坂省吾氏（株式会社アイピー）
 - ③ 2019年10月22日「植物から見た『身近な自然』」佐藤 謙氏（北海学園大学名誉教授）
- (5) 自然保護大学 テーマ「北海道の高山の自然－地形・植物・昆虫」
（2019年11月2日、札幌市資料館、参加者50名）
 - ①「高山の地形」渡辺悌二氏（北大大学院地球環境科学研究所教授）
 - ②「高山植物の生態特性と気候変動の影響」工藤 岳氏（北大大学院地球環境科学研究所准教授）

- ③「北海道の高山で見られる昆虫」堀 繁久氏（北海道博物館学芸主幹）
- (6) 地質観察会 「街中ジオ散歩－三角山採石跡地」
2019年9月28日、案内者：宮坂省吾氏（株式会社アイピー）、在田一則氏（北海道総合地質研究センター）、岡村 聡氏（北海道教育大学名誉教授）、内山幸二氏（山の手博物館館長、加藤孝幸氏（アースサイエンス株式会社社長）（参加者24名）
- (7) 2019年度円山公園外来植物除去作業（ボランティア活動）
2019年5月17日～11月7日の間、実施11回、雨天中止1回。円山公園にてゴボウ・イワミツバなどの抜き取り作業（ゴボウ236.7kg、イワミツバ123.2kgほか、ガーリックマスタード、アメリカオニアザミ各数kg、延参加人数187人）
- (8) その他
 - ① 2019年5月19日 第13回アースデイ in 円山動物園に参加
（「アースデイ in 円山動物園」は、労力のわりには普及事業としての効果が薄いので、今後は参加しない）
 - ② 公益財団北海道新聞野生生物基金2019年助成事業により、会誌「北海道の自然」No.58に2つの特集（「北海道自然保護協会創立55周年」、「夏休み自然観察記録コンクール25周年」）を編集、発行

4 自然保護活動および調査研究に係わる事業

- (1) 意見書・要望書（当協会単独で提出）10件
 - ① 2019年4月3日「札幌市の『環状通全線6車線化』に関する札幌市長及び市長候補者への公開質問状」（札幌市長・札幌市長候補秋元克広、札幌市長候補渡辺達生宛）
 - ② 2019年4月5日「（仮称）えりも岬風力発電所計画段階環境配慮書に対する意見」（日本風力開発株式会社宛）
 - ③ 2019年7月3日「苫小牧国際リゾート構想についての要望書」（北海道知事宛）
 - ④ 2019年7月12日「令和元年（2019年度）エゾシカの可猟区域及び期間等（案）に係る意見調書」（北海道知事宛）
 - ⑤ 2019年8月6日「苫小牧国際リゾート構想についての問い合わせ」（日本野鳥の会会長宛）
 - ⑥ 2019年8月9日「（仮称）えりも町風力発電事業計画段階環境配慮書に対する意見書」（JR東日本エネルギー開発株式会社宛）
 - ⑦ 2019年9月17日「えりも町における風力発電事業に関する要望」（えりも町長宛）
 - ⑧ 2019年9月30日「（仮称）北海道石狩湾沖洋上風力発電事業計画段階環境配慮書に関する意見書」（コスモエコパワー株式会社宛）
 - ⑨ 2019年9月30日「（仮称）檜山エリア洋上風力発電事業計画段階環境配慮書に関する意見書」（電源開発株式会社宛）
 - ⑩ 2019年10月11日「北海道えりも町における風力発電事業に関する要望」（北海道知事・日高振興局長宛）
- (2) 意見書・要望書（フォーラム野幌の森ほか2団体と連名で提出）11件
 - ① 2019年4月2日「北広島市ボールパーク（BP）構想に関する要望」（北広島市長宛）

- ② 2019年7月23日「北広島市ボールパークのアクセス道路に係わる要望書」（北広島市長宛）
- ③ 2019年7月23日「オオタカ等に係わる要望書」（北広島市長宛）
- ④ 2019年7月30日「北広島市ボールパークのアクセス道路に係わる要望書」（北海道知事宛）
- ⑤ 2019年7月30日「オオタカ等に係わる要望書」（北海道知事宛）
- ⑥ 2019年10月15日「北広島市BP構想(特にアクセス道路整備)に係わる自然保護関係に関する北広島市との意見交換の経緯と確認事項について」（北広島市長宛）
- ⑦ 2019年12月23日「ボールパークアクセス道路建設に関する要望および「ボールパークへのアクセス道路に係わる要望事項について」の北広島市回答(10月17日付け)への意見」
- ⑧ 2020年1月14日「令和元年10月17日の第一回アクセス道路に関する意見交換会議事概要の確認事項について」（北広島市長宛）
- ⑨ 2020年2月22日 再意見「自然保護4団体からの要望に関する課題整理」(2019年12月23日配布の資料4)に対する意見
- ⑩ 2020年3月17日「『第一回アクセス道路に関する意見交換会議事概要』についての再意見」（北広島市長宛）
- ⑪ 2020年3月22日「野生動植物等への暴挙である設計変更に抗議する」（北広島市長宛）

(3) 運動

① ダム問題

協会では、この10年以上にわたって主にサンルダム・二風谷ダム・平取ダム・当別ダムについて、自然環境の保全とダム以外の治水方法の選択という立場から、地元の団体とともに反対運動を続けてきた。2009年の民主党政権によるダム見直しにより、サンルダムと平取ダムは工事一時中止となったが、その後再開された。

サンルダムは天塩川の支流(名寄川)のそのまた支流のサンル川のダムで、当初からその治水目的の効果が疑問視され、またサクラマスの保全も大きな問題であった。2017年にダム本体工事(堤体高さ46m、長さ400m、貯水量5,720万m³)は完了し、同年12月にバイパス水路(幅3.7m、深さ1.4m、長さ7km)、2018年3月に階段式魚道(高さ30m、長さ440m)が完成した。水路は国内最長である。この魚道および水路がサクラマス成魚の遡上や稚魚の降海に関して十分機能するのか、湛水によって産卵床がどのような影響を受けるか、また漁業としてはサクラマス資源を減らさないようにできるか、今後も監視・注視する必要がある。

二風谷ダムは上流部の地質条件や設置場所が原因と思われる、国内ダムの中でも最大級の堆砂が問題となっていたが、2009年以降は大きな堆砂は見られない。ダム設置により下流の生活環境や水産業に影響が見られ、今後の検討課題である。

平取ダムは二風谷ダムの上流にあり、同様に上流部の地質条件から堆砂の危惧が大きい。現在ダム本体工事に入っているが、ダム堤体予定地付近にはアイヌ民族のチノミシリ(「我ら祀る場」の意)があり、現在も流域のアイヌの人たちの信仰の対象となっており、アイヌ民族の精神文化を守る上でも大きな問題がある。

当別ダムは当初は当別川の治水が目的であったが、その周辺市町への給水目的が加わった。札幌市の取水は、札幌市による水道水の過大な将来予測に発したものであった。ダム本体

は2012年に完成したが、札幌市は、取水が不要であるにもかかわらず、「何かあれば必要」として市の必要水道量の7%の取水のために多額な取水工事を計画し、不要な取水料の負担を担おうとしている。

② 風力発電問題

石狩海岸に集中する複数の風力開発事業について、協会は当初石狩海岸の自然な海岸砂丘生態系を守る立場で反対運動を始めたが、その後地元の団体とともに自然生態系保全に加えて風車騒音（低周波音など）による住民の健康影響や生活環境への悪影響の観点からも運動を進めている。現在は4事業所による計33基（単機出力3,200～8,000kW、風車の高さは137～212m）が営業中、工事中あるいは着工予定である。さらに石狩湾沖の洋上では単機出力8,000～12,000kW、最大125基、総出力100万kW（原発1基に相当）が計画されている。この計画については、札幌市環境影響評価審議会において景観への影響やバードストライク被害が指摘されている。さらに、風力発電事業の環境アセスメントが個々の事業者により行われ、すべての事業者の風車群全体による累積的・複合的影響についての評価がなされていないという極めて大きな問題がある。さらに最近あちこちで立ちつつある環境アセスメントの不要な小型風力発電施設による被害の問題もある。

今後、風力発電や太陽光発電、地熱発電などの再生可能エネルギーの開発はますます増えると思われるが、自然保護団体としての当協会がどこまで関わっていくか、あるいはいけるかは、自然保護団体としての目的やマンパワーの点からも考えて行かなければならない問題である。

③ 野生生物（エゾシカ、アザラシなど）問題

毎年、北海道からエゾシカやアザラシの管理などに関して意見聴取があり、情報収集や現地調査などに基づいて、意見を述べている。

④ 「都市の自然」プロジェクト

野外で市民と直接かかわることが比較的少ない協会としては、たいへん貴重な機会である。市民とともに行う自然保護運動として、円山公園における外来植物ゴボウ・イワミツバなどの駆除を継続して行なっている。会員勧誘の機会にもなっている。

⑤ 北広島市BP構想とそのアクセス道路計画の問題

アクセス道路は国の特別天然記念物「野幌原始林」の近隣にあり、北広島や野幌の自然を守る地元3団体と協働で、自然保護団体が推薦して有識者も交えて北広島市との話し合いを継続している。新年度からは、道道となるので、北海道（札幌建設管理局）との協議も始まる。さらに、アクセス道路だけではなくBPの建物による周辺の自然への悪影響を回避するという問題もある。

⑥ ニセコ違法伐採問題

地熱発電計画に伴う調査によりニセコ山系（ニセコ積丹小樽海岸国定公園）の数十箇所においてハイマツ群落などが違法に伐採された問題。現在は協会が推薦した有識者を含む専門家会議によって復元計画が作成され、北海道庁と北海道森林管理局のもとで、2019年度以降モニタリングや専門家会議によるそのチェックなどが適時実施されることになっている。

⑦ その他

II 特別会計事業

該当なし